

# 図書館forum

批判的に考える.....	寺尾 健夫	1
文献検索と収集を早くするために ～ PubMed と Discovery の併用～ .....	佐野 和生	3
■福井大学附属図書館所蔵「小島家文書」を読む(3) 富者の庇護下で生きる人びと 一元禄 12 (1699) 年、野中組 18ヶ村の請文からー	長谷川裕子	5
■福井大学附属図書館所蔵の古典籍(10) 江戸の気象学、明逸『通機図解』 ー雲の形を見て、気象を予測するー .....	膽吹 覚	8
「のらくろ」を見て思ったこと ー徒然なるままにー .....	太田 仁	11
■私の推薦書 数学の学び方を学ぼう .....	田嶋 直樹	13
『法学』の扉を開いてみよう .....	生駒 俊英	14
化学式が苦手という人にお勧め! これであなたの分子観も変わる! .....	藤井 豊	16
主な行事等 .....		17
平成 27 年度教員寄贈図書 .....		18
総合図書館企画展示 2015 .....		19
医学図書館日記 .....		21



# 批判的に考える

附属図書館長 寺 尾 健 夫

てらお・たけお

「オレオレ」「1 か月で英語がペラペラ」「10 日で〇キロやせる」「痛みがウソのように消える」、よく耳にしますね。言葉には不思議な力があります。絶望の淵にいる人に生きる力を与える言葉もあれば、サギのように人を窮地に追い込む言葉もあります。

皆さんは「批判」という言葉を聞いてどんなことをイメージしますか？「文句を言う」「クレームをつける」といったところでしょうか。そういう意味で使われることの多い「批判」ですが、実は大切な働きをします。それは「批判的に考える」ということです。

何かを知りたい、調べなくてはならない時に皆さんはたぶんネットを検索するでしょう。ネットやテレビ、広告には様々な情報があふれています。多くの情報の中から、何を基準にして必要な情報を選んでいきますか？

情報は、発信する側と受け取る側の両者がいて初めて成り立つものです。ただ困ったことに、今は情報を発信する側、つまり大きな組織や集団の発信力が圧倒的に強いいため、情報の受け手である私達個人はどうしても受身にならざるを得ません。つまり不利な立場に置かれることが多いのです。

では、不利な立場にならないようにするにはどうしたらいいのでしょうか？そのために必要なのが「批判的に考える」ということです。「批判的に考える」とは、ある情報に接した時にそれをそのまま信じるのではなく、分析的に検討していくことです。

例えば「英語がペラペラになりたい」と思って情報を検索するとします。「〇か月で英語がペラペラ」「聞き流すだけでしゃべれた！」などの言葉がヒットします。次に、その言葉と真反対の考えはどんなものかを考えます（「短期間では英語は上達しない」「聞くだけでは英語はしゃべれない」など）。ネットで見つからなければ、書店で本を探すのもいいでしょう。こうして相反する考え方の両方を比較検討して、金銭的・時間的・能力的に自分にとって実現可能な選択肢を絞っていくのです。その際に、自分ひとりで比較検討するよりも、友達や家族と話し合いながらの方が効果的であることは言うまでもありません。

つまり「批判的に考える」とは、何かを選択する時に、相反する考え方があることを考慮に入れて合理的な判断・選択をするためのツールなのです。このツールは、「〇日で批判的思考が身につく！」というものではなく、日頃から意識的に情報を分析・検討するように心がけることが大切です。そしてその習慣を最も身につけやすいのが、比較的時間に余裕のある学生時代です。

このように皆さんが「批判的に考える」習慣を身につけるお手伝いをするのも、図書館の大切な役割です。普段は試験期間中に勉強する場所として活用されることが多い図書館ですが、実は以下のような色々な学習の場を皆さんに提供しています。



### ●グループ学習室

図書館一階にあり、5～6人のグループで利用できる部屋が3室あります。一回2時間利用でき、移動できるホワイトボードやノートパソコンも貸し出しています。



机（PC電源装備）があり、電子媒体や書籍・印刷物などから得られる情報を使って議論を進めていくグループ学習ができます。また、コンピューターなどを使って自学自習が出来るように支援もしています。気軽に職員に声をかけて下さい。

### ●ラーニングアドバイザー（LA）

皆さんの日々の学習・試験勉強・就活や進学などについて、経験豊かな大学院生が相談に乗ってくれます。LAとして誰がいつ担当しているか、スケジュールは図書館ラウンジ前にあります。利用についての質問や予約は、カウンターや次のアドレスでも出来ますから、ぜひ利用してみてください。

→ [la-reserve@ml.cii.u-fukui.ac.jp](mailto:la-reserve@ml.cii.u-fukui.ac.jp)

（教育地域科学部社会系教育講座 教授）

### ●ラーニングコモンズ（LC）

「図書館では静かにしましょう」と言われるのが普通ですが、自由に会話できるスペースがラーニングコモンズ（LC）です。グループ学習用の





# 文献検索と収集を早くするために ~ PubMed と Discovery の併用 ~

医学図書館長 佐野 和生

さの・かずお

レポートの作成、研究計画の立案、論文の執筆、治療法の検討などでは、検索を行って文献を収集することが最初に必要となります。文献検索は、図書館の検索サイトにアクセスして行うのが一般的ですが、医学分野での主なデータベースに PubMed があります。世界の主要な医学関連雑誌（約 5,700 誌）に掲載された学術論文情報 2,000 万件以上（1946 年～現在）を調べることができるデータベースで、頻繁に使用されています。

PubMed の使用方法については、ネット検索すると各大学が作成した画面ごとに示したマニュアルが PDF で利用できるもので、参照しながら実際に動かしてみるのが覚える早道です。また、医学図書館において定期的に PubMed

や他のデータベースの使用法についての講習会が開催されていますので、受講されると良いかと思います。何事も同じですが、我流で覚えても到達できる技術は限られています。講習を受け、初歩的な技術を身に付ける方が、結果的に上達が早くなり、また時間の節約にもなります。

文献収集については、PubMed の画面で検索し、必要な文献をチェック☑した後に、text 形式に変換し、Word で保存。この Word 文書は、レポートや論文作成の際に文献（References）としてそのまま利用可能です。Word 画面を PC 画面の左側で開き、右側で図書館のホームページから包括的な情報探索ツールであるディスカバリー (Discovery【図 1】) の画面を開きます。【図 2】



【図 1】



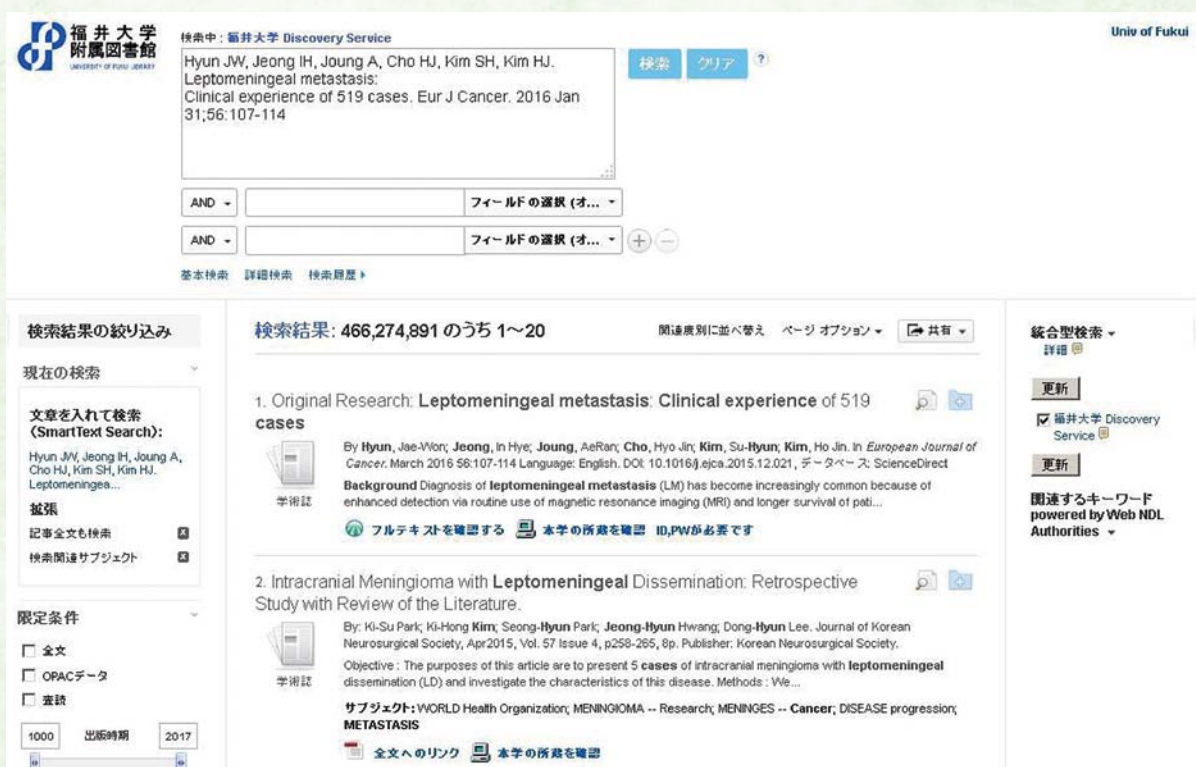
【図 2】

ある総合教育科目の先生に使い方をお聞きすると、Discovery に、①雑誌名を入力し、検索。その後、②巻、号などを入力すると必要な文献に迅速に辿り着けるとのことでした。Discovery は、検索語が少ない時には多量のデータを拾ってきて、その多くがノイズであることも少なくないため、この手法は非常に有用と思われます。

もう一つの方法として、Discovery の詳細検索画面で、③文章を入れて検索 (Smart

Text Search) を選択し (図 2 の矢印を参照)、PubMed から Word に移した文献の著者名から表題、年、巻、号、頁までをコピーし、入力すると文献が上位に現れる場合が多いようです。【図 3】

一方、Word に保存するのは面倒という場合には、PC 画面の右側で図書館のホームページからディスカバリーの画面を開き、画面左側で別の Web ページから PubMed を開きます。これで、PubMed の書誌事項を直接コピーし、Discovery に入力可能となります。



【図 3】

Discovery の検索結果で PDF の表示がある場合には、クリックすれば全文の PDF を入手できます。PDF の表示がない時には、「所蔵を確認」をクリックすれば書誌事項に到達できます。所蔵があれば、図書館で探すことも可能です。さらに、所蔵がない時には、ILL 複写依頼の画面に移動します。そこには、必要とする文献がそのまま転載されているため、オーダーボタンをクリックするのみで学外文献発注が可能となります。

その他のデータベースとして、EBMR (医療情報)、UpToDate (臨床医学情報)、CINAHL (看護学情報)、医中誌 WEB (国内の医学・看護学情報) などがありますが、詳細は図書館の職員に尋ねていただければと思います。

これらのツールを駆使していただくことで、学習、研究がより円滑に深化していくことを願っています。

(医学部感覚運動医学講座歯科口腔外科学領域 教授)



## 福井大学附属図書館所蔵「小島家文書」を読む(3)

## 富者の庇護下で生きる人びと—元禄 12 (1699) 年、野中組 18 ヶ村の請文から—

教育地域科学部社会系教育講座准教授

長谷川 裕 子

はせがわ・やすこ

国内外での武力行使を凍結し、パックス・トクガワーナと評された江戸の「平和」を創り上げた江戸幕府。その後は、慢性的飢饉状況の克服を残された最大の課題として、人びとを「生かす」ための施策が打ち出されていく。「小島家文書」のなかにも、そうした江戸幕府の発した法令の一つと、それを村人たちが受け入れた請文が残されている(4004号文書。以下「小島家文書」については目録番号のみを示す)。今回は、この文書を中心に、当時の人びとの「生き残り」の方策を覗いてみよう。

元禄 11 (1698) 年 12 月、江戸幕府は諸国の農村や都市に対して三ヶ条の「覚」を発令した(『御触書寛保集成』2603号)。この法令は、幕府直轄領(幕領)に対しては、幕府財政一切とともに幕領などの民刑事訴訟を扱っていた当時の勘定奉行松平重良・荻原重秀・井戸良弘・稲生正照と、その監査役であった勘定吟味役諸星忠直の連名で幕領代官などに伝えられ、翌月には、越前を担当していた幕領代官馬場源兵衛から配下の高木三左衛門を通じて越前の幕領の村々へ「御触」として提示されたようである(4004。以下、「法令」と略記)。「法令」の内容は、①小作期間が 20 年以上に及んだ小作田地は「永小作」(無年季小作)とすること、また 20 年を過ぎた質地田畑の訴訟は受け付けないこと、②以前より譜代(一生涯)および永年季(10 年以上)の奉公契約は禁止だが、諸国洪水による不作となった延宝 3 (1675) 年のみ、同契約を認めたこと、③奉公人の年季は、従来 10 年を上限と定められていたが、今後は年季上限を撤廃し、譜代奉公・永年季奉公も「相對」(当事者同

士の相談) によるとしたこと、である。「小島家文書」(4004) には、このうちの③の条文が、代官から村々への伝達文とともに写され、それを承諾した当時は幕領であった野中組の村々 18 ヶ村(上番・中番・下番・玉木・公文・角屋・今市・竹松・楽円・油屋・玉江・野中・野中新・蛸渡・辻・下小森・上小森・西方寺)の庄屋の「村々判形」が押されている。もともと③の条文のみを写した文書なのか、あるいは①・②の条文の部分が欠損した前欠の文書なのかは確定できない。しかし、実際に江戸幕府から発令された法令の様式のように箇条書き形式で写されていないところをみると、③の条文のみをあえて取り出して写した文書なのではないだろうか。なぜこの点にこだわるのかというと、実はこの③の条文、その内容をめぐって日本近世史や法制史の分野で古くから議論となっているからである。

「法令」②の条文にもあるように、江戸時代においては、譜代や永年季奉公といったいわゆる人身売買は「御制禁」であり、江戸幕府も元和 2 (1616) 年に「人の売買の事、一円停止たり、もし売買<sup>みだり</sup>の輩は売損・買損」(『武家厳制録』巻 24「雑事高札」。以下、「禁令」と略記)と発令して以来、たびたび禁令を発してきた。この元和 2 年とは、大坂夏の陣で徳川家康が大坂城に拠る豊臣秀頼を滅亡させ、国内の戦争を終結させた翌年にあたる。実は、これ以前にも、豊臣秀吉によって江戸幕府法令とほぼ同内容の人身売買禁令が発令されているが(『下川文書』「立花文書」)、この法令も豊臣秀吉によって行われた九州征伐直後の天正 16 (1588) 年に出され

たとみられている（「芝文書」「大阪市立博物館所蔵文書」）。つまり、人身売買の禁止は、戦場の封鎖と「平和」形成のためには不可欠な政策と認識されていたのである。というのも、戦国の戦場では、「乱取り」と呼ばれた足軽による人や物の掠奪が横行していた。足軽たちは、掠奪した人や物を戦争商人に売却したり、身代金を要求したりすることで収入を得ており、その意味でこの「乱取り」の習俗は、彼ら足軽たちが生き延びるための術として社会的に定着していたのである。そのため、「乱取り」から人身売買へという流れを断ち切ることが、列島「平和」を実現する統一政権に対してなによりも最初に求められた役割であったといえよう。

いわば、戦後の臨時立法として出された「禁令」は、その後元和5（1619）年には、「人売買御制禁」「長年季御停止」が謳われ（「御当家令条」375号）、寛永10（1625）年には、元和2年に3年間と定められた年季が10年間に改定されていく（『御触書寛保集成』22号）。こうして、人身売買、特に長年にわたる人身契約は政策として忌避される社会となった

わけである。しかし一方で、「小島家文書」にも残る元禄11年の「法令」③の条文は、その流れに逆行するような奉公年季制限撤廃令となっている。なぜ、このような政策転換が行われたのか。この点がまさに、研究史のなかでも議論を呼んでいるところなのである。では、奉公年季制限撤廃の背景には何があったのだろうか。

「法令」②の条文には、「諸国洪水不作」により延宝3年は人身売買を「免許」されたとあるが、これは「去年国々洪水に付き、諸民困窮たるのあいだ、当卯年は長年季の者又は譜代指し置きそうろうとも相対次第」という延宝3年2月に発令された「覚」を指している（「御当家令条」394号）。つまり、基本的には人身売買は禁止なのであるが、人びとが「困窮」する危機的状況に直面して一時的に認められた時限立法ということである。しかしこのような発令は、江戸幕府に限ったことではない。鎌倉幕府の執権北条泰時は、寛喜3（1231）年の飢饉の際、飢えた人を買収取って養育すれば下人としてよいと発令している（「鎌倉幕府追加法」112条）。いつの時代



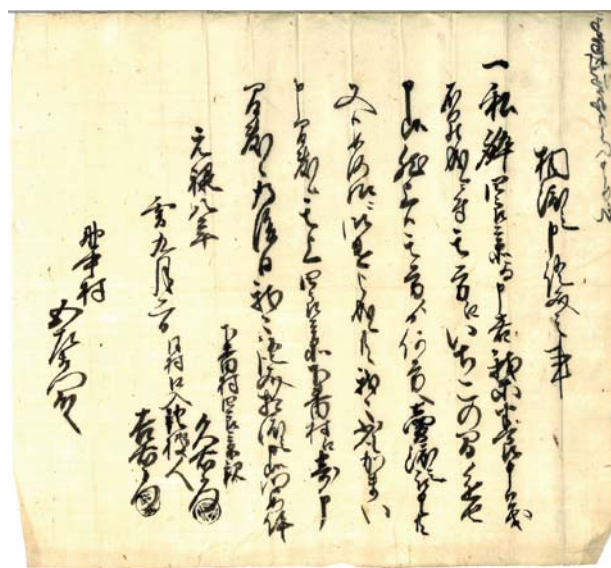
元禄12（1699）年1月 触状ならびに野中組18ヶ村請文（No.4004）

にあっても、為政者の政策として人身売買は禁止されていながら、飢饉や災害などの非常時においてそれが解禁されるという状況は、実は歴史上何度か確認されるのである。戦国大名上杉謙信が戦場での人身売買を許可したのも、領国の人びとの「困窮」という危機的な社会状況に原因があったのかもしれない（「別本和光院和漢合運」）。

一方、これらの法令を受け取る側の人びとが、しっかりと年季制限を守っていたのかというと、実はそうでもない。寛永21（1644）年、飢饉に苦しんでいた母親が息子を地域の富者のところに「<sup>（永代）</sup>（<sup>（譜代）</sup>）<sup>（童買）</sup>」進上している（「下坂文書」）。このような習俗は当時「<sup>（童買）</sup>」と称され、「困窮」時の「買い助け」として広く世間に認知されていた。「小島家文書」のなかにも、奉公人年季制限撤廃以前の元禄8（1695）年、下番村の久右衛門が息子四郎兵衛を野中村の小島五左衛門に「<sup>（一期）</sup>」の間に進上した事例が確認できる（4396）。このように、地域社会においては禁令の有無にかかわらず、まさに命助かるために譜代あるいは永年季の人身契約が結ばれていたのである。しかも、元禄11年は、不作に苦しむ野中組を含む村々が「御慈悲」を求めて訴訟した翌年にあたり（2233。図書館forum No.11 参照）、元禄10年につづき、11年にも代官などから「<sup>（食糧）</sup>」を受け取った文書・帳面が多数残されている（93・131・1505・2117・2118など）。

こうした状況からは、戦争が停止され「平和」な世がやってきても、そして「法令」が出された元禄11年になっても、人びとはいまだ「困窮」から解放されておらず、それゆえ人身契約という形での富者の救済が必要とされていたことがうかがえよう。そしてさらにいえば、元禄11年の「法令」は、譜代・永年季契約が一般化していた地域社会の実状に合わせるために、奉公年季制限撤廃令が出されたと推測できるのではないだろうか。「法令」が出される7ヶ月前、江戸幕府の寺社奉行・町奉行・勘定奉行・勘定吟味役の連名で老中に差し出された「金銀出入、双方一領訴、奉公人年季窺書」（「舞鶴市谷口

家資料」、『立命館法學』第231・232号。以下「窺書」と略記）には、「幼少の子供相対にて永年季、譜代にも貰い申す者」はいるだろうが、10年の年季では貰い手がないために「下々の子供片付きかたく、めいわく仕りそうろうと承り及びそうろう事」と、「法令」③の条文を制定した理由が書かれている。養育してようやく人並みに働けるようになった頃には契約解除となる10年の年季契約では、買い手側にあまりにも利がないということなのだろう。また、「窺書」には、凶年時に限り年季制限を撤廃するという政策を取った理由として、以前は永年季を必要とする人がさほど多くなかったため、と記されている。この記述は、「困窮」する人びとは江戸初期よりも江戸中期の元禄期の方が増えていることを意味しているのかもしれない。いずれにせよ、童買による「生き残り」がまだまだ不可欠な社会にあって、その実状に合わせた法改正の必要性が江戸幕府内部でも議論されるようになったのであろう。結果として、「窺書」を受けた老中は、「伺いの通り、年季の儀、向後相対次第に致さるべくそうろう」と、奉行たちの上申を受け入れ、富者の庇護下でとりわけ子供を「生かす」ための譜代・永年季奉公を政策として進めていくことになったのである。



元禄8（1695）年9月  
相渡シ申証文之事（No.4396）



## 福井大学附属図書館所蔵の古典籍(10)

## 江戸の気象学、明逸『通機図解』——雲の形を見て、気象を予測する——

国際交流センター准教授 膽 吹 覚

いぶき・さとる

テレビジョンやスマート・フォンが無かった江戸時代。当時の人々は、どのようにして天気を予測していたのだろうか。その答えの1つが、雲の形を見て予見する方法である。

『通機図解』は江戸時代中期に刊行された気象学の書物で、太陽の周辺に現れた雲の形を「柳顚」「紫蓋」「騰蛇」「競困」「飄慢」「白旗」「蟠龍」「天陳」「錦機」「焰軍」「乱絲」「火蛇」「碧嶺」「靈台」「龍虎」「鉄冑」「踞陰」「漆板」「黒帝」「飄練」の20則(タイプ)に分類し、それぞれに正体と変体とを設け、合計40則について図解したものである。

著者の明逸(1727-1797)は、伊予国松山(愛媛県松山市)の円光寺(真宗大谷派)の住職を務めた人である。明逸は延享3年(1746)に京都・江戸に出て、服部南郭や宇野明霞といった荻生徂徠の門人と親交を持ち、松山に徂徠学を伝えている。また、彼は能書家としても知られた人である。著書に『阿弥陀経妙徳讃稿本』と『扶桑樹伝』がある。

本学所蔵の『通機図解』(451-MEI)は、版本の1冊本である。中本(18×13cm)。表紙(原装)は縹色で角裂はない。表紙左肩部に四周単辺刷題簽に「通機図解 全」とある。内題と柱題はともに「通機図解」である。丁数は序文4丁、本文43丁、計47丁。表紙見返しは白紙。巻頭に「通機図解序」を置く。序文は漢文体で、半丁5行1行12文字で3丁半ある。その末尾には「宝暦九年十月廿一日、明月道人明一寓浪華願慶閣識」と記されている。「明道道人」は明逸の号であり、宝暦9年(1759)、明逸は33歳であった。

「通機図解序」に拠ると、南北朝時代の武将、楠正成が「機微変兆之書」を著わし、その一部が「日・月及北斗図三卷」として、その子孫によって代々「秘筐」に伝えられた。その「秘筐」の書物の中からいくつかの「雲気」(雲の形)を抄録し、解説文を付けたものが、『通機図解』であるという。明逸は楠正成が「雲気」を察して行う方法を創始したとするが、根本順吉氏が指摘するとおり、それはやはり中国起源のものと見るべきであろう。

序文の識語の裏面(4丁裏)には「明和四年乙亥三月考訂之梓、浪花法橋高嶋秀芳出貨刻」とあり、明和4年(1767)3月に考訂のうえ出版され、その時に大坂の高嶋秀芳(伝未詳)が資金を出したことが知られる。

本文は第5丁から始まる。その巻頭には「総説」——その末尾に「宝暦己卯十月一日」とある。宝暦己卯は宝暦9年。——として7箇条を置く。「総説」に拠ると、本書の「柳顚」から「蟠龍」までの7則は朝日にかかる雲であり、「天陳」から「碧嶺」までの6則は夕日にかかる雲であり、「靈台」から「飄練」までの7則は朝夕に限らず1日の中でも見られる雲であるという。そして、本書が明らかにするところは、天の時を知り、地の利を得ることであり、治乱の変には関わらず、大風や大雨、雷、洪水、長旱を予測し、事前に急難を免れしめんことを目的とする、とある。また、「我が遠祖ノ伝ル処ノ家訓ノウチ」として、「日経」「月経」「北斗経」の3経の中で「月経」「北斗経」は「タヤスク伝ヘカタシ、故ニ今ハタ、日経ヲ抄出シテ」出版したと

断わっている。

本文は則（形）ごとに正体と変体を描いた図を半丁ずつ掲載し、その後に半丁6行の罫線紙に漢字片仮名交り文で解説文が記されている。

本書の内容を第1則「柳顚」を例にとって示してみよう。右側の図が正体で、左側が「変体」である。太陽は円形で示されており、正体の中央部、「変体」の右側にそれぞれ描かれている。「柳顚」の解説文には、次のように記されている。

柳顚ノ一則ハ甚ダヲソルベキノ気ナリ。朝日ノ出ルトキ、東方ニテ赤キ雲マタ黒キ雲ト相カサナリ、或ハ鷺ナトノアツマリタルカタチノ如ク日ノ上ニ掩ヒカ、レバ、其日ノ未申ノ刻ニ雷ナル事帛ヲ裂ガ如ク、サケナケレバ地震トナリテ山ヲ崩シ、樹ヲ倒スコトアリ。勿論大雨フルコト桶ヨリウツスガ如ク、ヨクヨク用心スベキノ兆ナリ。

「柳顚」はとても恐るべき雲気である。日の出の時、

東の空に赤い雲と黒い雲が重なっていたり、あるいはアヒルなどが集まったような形の雲が太陽を覆い隠したりしていたならば、その日の午後1時から5時ごろに、絹を裂くような高く鋭い音をともなった雷が鳴るだろう。もしそのような雷が鳴らなければ、地震が起こり、山を崩し、樹木をなぎ倒すことがある。もちろん、バケツをひっくり返したような大雨も降る。このように「柳顚」はよくよく用心すべき兆候である。

もう一例、第10則「焰軍」を見てみよう。

焰軍ハ長早ノ気ナリ。寔ニ聞モオソロシキ者也。五月六月七月ノアヒダニ出ルモノナリ。南ノ方ニアタリテ鳥ノ足跡ヲ見ル如ク赤キ雲ウチツラナリ、夕日ノ前後左右ニ出レバ、其夜カナラズ天ノ河スミキリタル様ナルモノナリ、是雲ハ奇代ノ大旱ナリ。短トキハ十日九十日雨ナシ、長キ時ハ百五六十日雨ナシ。是全ク天ノ災ヲ降セルナリ。禱ルトモ甲斐ナシ。

「焰軍」は長い早の雲気である。本当に聞くも恐







ろしいものである。5月から7月にかけて見られる。南の空に鳥の足跡のような形をした赤い雲が連なり、夕日の前後左右にそれが出れば、その夜は必ず天の川が澄み渡って見える。この雲気は稀に見る大早である。短ければ10日、90日は雨が降らない。長いときは150～160日も雨が降らない。まったく天の災いであって、雨乞いなどの祈祷をしても効果は期待できない。

『通機図解』に見られる明逸の見解が現代の気象学から見て適当であるか否かは、書誌学者である私にはわからない。しかし、近年、世界各地で起こっている気象災害や阪神淡路や東日本を襲った大震災などを鑑みると、こうした江戸の気象学から何か学べるところがあるのではないだろうかと思う。なお、気象学者、藤原咲平氏の『雲を掴む話』（『通俗科学叢書』第5編、岩波書店、大正15年刊）には、明逸の『通機図解』に記された気象学について、藤原自身の観察による検証を踏まえて述べた箇所があるので、興味のある方はご覧いただきたい。



本学所蔵『通機図解』の刊記は、後表紙見返しに「明和三丁亥歳三月吉辰、書舗 心斎橋博勞町 誉田屋伊右衛門」とある。誉田屋伊右衛門は大坂、心斎橋博勞町に店を構えた書肆で、『新撰万葉集』（元禄12年）や『狂歌家の風』（享和元年）などを出版している。寛政2年改正『板木総目録株帳』の「天文」の部に「通機図解 誉伊」とあり、寛政12年の時点でも本書の板木の株は、伊右衛門の誉田屋にあったことが確認できる。蔵書印は「師範蔵図書之記」「福井大学図書之印」の2種類。保存状態は全体にやや草臥れている。なお、本書には明和4年版以外に文化3年版（1806）がある。

明逸の版本『通機図解』は本学以外にも15の図書館・文庫で所蔵されている。また『通機図解』は『江戸科学古典叢書』第22巻（恒和出版、昭和52年刊。本学総合図書館書庫に配架）にその影印本が収録されていることを記しておく。

# 「のらくろ」を見て思ったこと ～徒然なるままに～

学術情報課長 太 田 仁

おおた・ひとし

「のらくろ」は、1931年から「少年倶楽部（大日本雄弁会講談社発行）」に連載された田河水泡のマンガで、野良の黒犬（野良犬黒吉）が、猛犬聯隊という犬の軍隊へ入営して、二等卒からどんどん階級を上げてゆき、最終的に大尉まで昇進するという物語である。

「のらくろ」を目にすると、小学生の頃、地元の公民館の文庫に所蔵されていたものを、公民館に行く度に読んでいた記憶が甦り、現在のアニメおたくの原点がここにあったのではないかと思うのである。

を、文学部のある大学では「修紫田舎源氏」などを、気の向くままに読み進めた結果、虫嫌いの私が紙魚や死番虫と共棲できるまでになったのである。そして、福井大学の書庫を歩いていた時、最初に目に入ってきたのが、前述の「のらくろ」だったのである。福井大学図書館でも「少年倶楽部」は1933年に少しだけ購読していたようであるが、大学図書館なので、揃っていないけれども良いのである。（全国の大学図書館の所蔵が分る「Cinii Books」で『少年倶楽部』検索してみると、全国で28の大学に所蔵しているようである）



Cinii 検索結果画面

図書館 forum に、なぜ「のらくろ」が登場するのかと思っていますと想うので少し説明すると、私は書庫が好きである。書庫に入って、隅から隅まで書架を見ながら歩き回るのが好きなのである。福井大学総合図書館の書庫は全てが集密書架なので、いちいち動かして書架の間に入っていく行かなければならず、面倒なのだが、それでも、一連動かしては書架を眺め、また動かして眺めるということを続けるのである。文化財研究所の書庫では、発掘調査報告書

本というものは、経験を重ねることによって、同じ文章を読んでも入ってくる内容が変わって来るもので何年か経って読み返してみると、前に読んだ時に面白いと感じたところに何も感じなくなったり、何気なく読んでいた文に感動することがあったりと、読み返す度に新しい発見があって良いものである。





書庫

斯様な訳で本を眺めながら書庫をさ迷うのである。

文系の大学図書館には、書庫に住み着いている学生がいるのであるが、福井大学には居ないようである。

書庫に居を構えていない学生は、仕方なく OPAC を検索して目的の本を探すのである。しかし、OPAC ではタイトルや著者名、出版者などしか検索できないので、やはり現物の情報量には劣るのである。タイトルを特定しないで検索するのであれば、本文まで検索できる電子ブックに軍配が上がるのであるが、如何せんまだ出版自体が少ないので、電子ブックの購入に力を入れている本学でも、まだまだ蔵書数が少ないのである。なので、ディスカバリーサービスを使うのである。ディスカバリーでは検索結果をファセットを使って絞り込むのであるが、本学に所蔵していない本や論文についても、そのまま購入依頼や複写依頼もできて便利なのである。



OPAC (蔵書検索) 簡易検索画面



ディスカバリーサービス検索結果画面

書庫で過すのが好きな私であるが、常に書庫に入り浸っていないのである。そこはアニメおたくなので聖地巡礼の旅に出ることもあれば、聖地秋葉原に出向くこともある。秋葉原に行ったら、ラブライブの聖地である神田の「竹むら」に寄って「揚げまんじゅう」を食すのである。



江東区「のらくろロード」

私の推薦書

## 数学の学び方を学ぼう

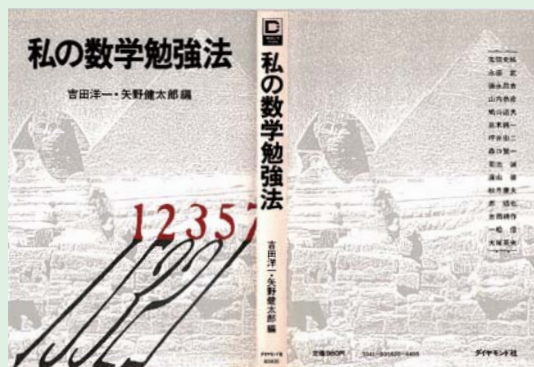
附属図書館運営委員会 委員

田嶋直樹

たじま・なおき

私の所属する物理工学科では、学生が授業の単位を何度も取り損ね続けることがあったら、その原因の第一は授業で使う数学の理解不足です。そして同じことは工学部の他の学科でも起きていることでしょう。そこで、この機会を利用して、大学での数学の勉強方法についての本を紹介したいと思います。

「私の数学勉強法」(吉田洋一、矢野健太郎編、ダイヤモンド社、1965年)



数学の習得についての17人の著者によるエッセイ集です。著者の人選が幅広く、数学者以外に物理学や工学の出身者が含まれているのが特長です。具体的に記された様々な人生を過してきた著者の方々が、数学の勉強に際してぶつかった困難に、どのような工夫をして対処したかを知ること、学生の皆さんが自らに適した数学への処し方を編み出すのに役立つと思います。

まず、多くの編に共通して「演習問題を解くことが数学を学ぶ目的ではない」と書いてあります。「中学、高校時代には、一度、むず

かしい問題が自力で解けたということ、あるいは、一度、先生に認められたという印象を持つこと等で、それ以来非常にスムーズに数学になじめるようになる場合がある」(菊池誠)のは数学の学習意欲を高める契機として意義を肯定すべきですが、「数学でいちばん大切なことは演習問題を解くことにある。だから、教科書の本文は演習問題を解くための補助手段にすぎない」と考えたとしたら「まさに本末転倒の典型的な一例」(吉田洋一、但し原文を短くしました)なのです。

また、「数学というものは、ある特定の範囲にとどまることを固執すると難問に見えるものでも、その範囲をちょっと出てそこから振り返って見れば、こんどは楽々と解けることが多い」(矢野健太郎)ものなので、昔の英国の教育に由来するという「低い方法」をうんと勉強してからやっと「高い方法」に入るというやり方(日本で言えば高校の数学レベルで入試の難問を解く修練を積んでから大学の数学を学ぶように)でなく、速やかに高等な内容の学習に進むべきだという主張が何編から読み取れます。

個々の著者について言えば、特に赤根也さんの話が大学生一般のことをよく分かって書かれた文章だと感じました。沢山のことが書かれているので、短くまとめられませんが、どれも学生のためになる大切なことばかりです。

また、秋月康夫さんの話は、「昔の人はよく頑張った、私達も頑張ろう」という気持ちにな



る話です。何人もの学友のことが書かれていて、どれもそれぞれに参考になります。

「数学のまなび方」(彌永昌吉著、ダイヤモンド社、1969年)

例えばユークリッドの幾何学だとか集合論だとかの具体的な数学のテーマについて理論を構築し説明していく流れのなかで、ときどき浮かび上がってくる、その個別のテーマに限らず数学一般について当てはまるような教訓を述べる、という形で書かれています。この本を粘り強く読みとおせば、数学の個々のテーマについての教養も身に付くことでしょう。ただし、数学一般を勉強するためのアドバイスをすぐにでも教えて欲しい人にとっては、「私の数学勉強法」と比べるとこの本は遠回りだと感じることでしょう。

「新・数学の学び方」  
(小平邦彦編、岩波書店、2015年)。

旧版(1987年)の「数学の学び方」が8編のエッセイから成っていたのに対し、新版は更に5編

を加えています。本書中で第一のお薦めは、小松彦三郎さんの一編です。切れ味のよい洞察に満ちた発言が幾つも含まれています。「暗記のすすめ」というタイトルがつけられていて、数学としてあり得ない主張が書かれていそうな印象を受けるかもしれませんが、それは学者一般の持つオリジナリティを尊重する価値観、平たく言うと「人と違うことを言いたい」という気持ちの発露であって、もしもタイトルで判断して読むのをスキップすると大損をします。河東泰之さんの一編もお薦めです。文章の印象は小松彦三郎さんの文章から毒を抜いたような感じです。

(大学院工学研究科 物理工学専攻 准教授)



## 『法学』の扉を開いてみよう

附属図書館運営委員会委員  
生 駒 俊 英

いこま・としひで

推薦図書紹介の依頼を受けた際に、何を推薦しようかと考えてみると、最近自分の研究に関わる書籍以外の本をほとんど読んでいないことに気付いた。流行の本や人から勧められた本は購入してはいるものの、本棚に眠ったままである…。読んでもない書籍を推薦

することは気が引けるので、私の専門とする法学に関する入門書(とりわけ、読みやすい本)及び学生向けに私が学生時代に読んでいた書籍を紹介してみたい。

まず初めに、法制執務用語研究会『条文の読み方』(有斐閣)である。一般の人が法学

と聞いてイメージするのは、堅苦しいであったり、とっつきにくいということがあげられる。確かに、法律の文章は難しく独特のルールが用いられる。例えば、「係

る」と「関する」ではどのように使い分けをしているのか、「適用」と「準用」、「推定する」と「みなす」の使い方の違い等である。このような法律文章を読む前に、ルールを整理してくれているのが本書である。分量もそれほど多くなく、法学を専門としない人にも読んでみてもらいたい一冊である。

次に紹介したいのは、潮見佳男ほか『18歳からはじめる民法』（法律文化社）である。本書は、いわゆる「18歳から」シリーズの一冊である。内容は、日常生活

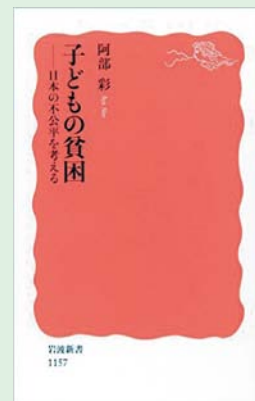
において誰にでもおこりうる全16の具体的事例を示し、それと法との関わりについて丁寧な解説がなされている。それぞれの解説は、1つの事例に対して6頁という初学者に対しても読みやすい分量で執筆されている。また、キーワードは太字で強調され、普段あまり馴染みのない法律用語は注において解説がなされており、それまで高校で扱っていた教科書の延長線上として本書に取り組むことが可能なように工夫されている。しかし、本書は、全くの初学者のみを対象としているのではなく、ひととおり民法を学んだ事のある者も、体系的に学んだその民法の知識を、日



常生活との関係で理解する上で、非常に役立つものと思われる。むしろ、一度民法の体系的教科書を読んでから、本書に目を向けた方がより面白さが増すようにも思われる。

さらに、私が現在研究している分野から阿部彩『子どもの貧困』、『子どもの貧困Ⅱ』（岩波新書）を勧めておきたい。マスコミ等においても盛んに報道されているように、我が国における子どもの貧困率が上昇している。平成24年の「子どもの貧困率（相対的貧困率）」は、16.3%にも及ぶという。このような現状をまず知り、そして今の自分にできることを考えてもらいたい。

最後に法学に関する書籍以外として、蒲島郁夫『逆境の中にこそ夢がある』（講談社）を推薦しておきたい。蒲島郁夫という名前は御存じの方も多いと思われるが、現熊本県知事であり、くまモンを採用した際の知事である。タイトルから想像できるように、いわゆる自己啓発本の種類に分類されると思われるが、「どんな人生にも必ず5度の大きなチャンス





が訪れる！」とのフレーズには、学生時代に励まされたものである。本書では、著者が如何にしてチャンスをもものにしたのか、またその際の努力について書かれている。非常に読みやすく、将来への展望が描けない、又は今の自分にやる気が起きない学生には是非読んでほしい一冊である。「夢を持つだけでは何も

起こらない。夢に向かって一步踏み出すことが重要なのだ。・・・その一步を踏み出す時、そして踏み出した後には、要所要所で、自分自身をギリギリまで追い詰めていかなければならない。」

(教育地域学部・地域政策講座 法律学 准教授)

## 化学式が苦手という人にお勧め！ これであなたの分子観も変わる！

医学図書館運営小委員会 委員

藤 井 豊

ふじい・ゆたか



推薦図書

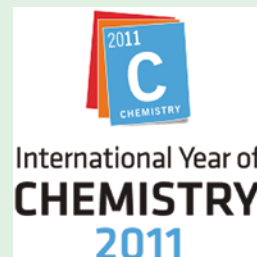
有機化学美術館へようこそ—分子の世界の造形とドラマ—、佐藤健太郎著、技術評論社、2007.

著者の佐藤健太郎氏は、2011年世界化学年に日本化学連合から化学コミュニケーション賞を

受賞している。本書はその受賞の対象となった業績本である。2011年は、キュリー夫人が1911年にノーベル化学賞を受賞して100年目の年に当たる。同じく国際純正・応用化学連合(IUPAC)が設立されてちょうど100年目の年に当たり、2008年の国際連合総会で2011年を「世界化学年」(International Year of Chemistry: IYC2011、**世界化学年ロゴ参照**)とすることを決めた。これを記念して、世界化学年日本委員会が日本学術会議

の化学委員会を中心に組織され、日本化学連合が本賞を設立した。著者は栄えある第1回目の受賞者となったのである。

さて本書の特徴は、有機化学の教科書的なものではなく、見て鑑賞して楽しむ内容になっている。巻頭の1～32ページは、フラーレンやカーボンナノチューブ、ノーベル化学賞に輝いた分子たち、色々なカテゴリでのギネス級の分子、ナノキッズやナノカー、超分子そして夢のある分子がワイヤーフレームモデルで描写されている。私もこの本に刺激されサッカーボールのようなフラーレン(分



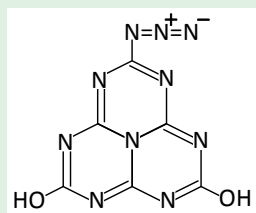
世界化学年ロゴ



分子1 フラーレン

医学図書館には黒と青の大型モデルが展示されている。

子1)、正12面体分子ドデカヘドラン、世界最強の酸のカルボラン酸をはじめとする多様な化合物の分子模型を独自に開発したポインター方式分子模型教材を用いて製作した。実は、佐藤氏の受賞式当日に同じ会場に筆者もいた。福井大学として筆者他2名は第1回化学コミュニケーション審査員特別賞の荣誉に輝いたのも、何かの縁を感じる。本書には、ライナス・ポーリングが書き残したという「ポーリングのミステリー分子」が描かれている(分子2)。存在するかどうかも解らないが、

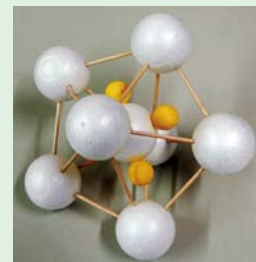


分子2 ポーリングのミステリー分子  
描写より構造を推定している。

その謎解きにチャレンジしてみてもはどうだろうか？筆者は本書の夢のある分子に刺激され、モレキュラージャイロなる架空の分子を創造してみた(分子3)。是非みなさんも有機化学美術館に触発されて色々な分子を創造してみしてほしい。

(医学部医学科

生命情報医科学講座 分子生命化学 教授)



分子3 モレキュラージャイロ

夢の分子ロケットの姿勢制御素子？

## ■ 主な行事等

2015.03.11 (水)

- 第36回附属図書館運営委員会(メール審議)
- ・エルゼビア社電子ジャーナルの Science Direct のアクセス方法について

2015.4.30 (木)

- 第37回附属図書館運営委員会
- ・今後の資料整備方針について
  - ・資料費・維持管理費の配分割合について

2015.06.04 (木)

- 第24回総合図書館運営WG
- ・平成27年度総合図書館予算配分について
  - ・平成28年度の資料整備方針について

2015.6.26 (金)

- 医学図書館運営小委員会
- ・平成27年度医学図書館予算配分について
  - ・平成28年度の資料整備方針について

2015.11.25 (水)

- 医学図書館運営小委員会
- ・平成28年度の資料整備案について
  - ・義手の展示について
  - ・資料の廃棄(売払い)について

2015.12.16 (水)

- 第38回附属図書館運営委員会
- ・今後の資料整備方針について
  - ・自己点検評価報告書(平成28年度)の作成について



## 平成27年度教員寄贈図書

## 総合図書館

教育地域科学部 社会系教育講座 歴史学

長谷川裕子 准教授

- 戦国期の地域権力と惣国一揆（中世史研究叢書；28）  
長谷川裕子著 -- 岩田書院，2016. ISBN 9784866029412
- 中近世移行期における村の生存と土壌（歴史科学叢書）  
長谷川裕子著 -- 校倉書房，2009. ISBN 9784751740606

工学研究科 原子力・エネルギー安全工学専攻 エネルギー安全工学

小高知宏 教授

- 人工知能入門  
小高知宏著 -- 共立出版，2015. ISBN 9784320123892
- コンピュータ科学とプログラミング入門：コンピュータとアルゴリズムの基礎  
小高知宏著 -- 近代科学社，2015. ISBN 9784764904941

## 医学図書館

医学部 器官制御医学講座 泌尿器科学

横山 修 教授

- EBM 泌尿器疾患の治療 2015-2016  
後藤百万〔ほか〕編集 -- 中外医学社，2009. ISBN 9784498064164
- LUTS 診療ロードマップ：lower urinary tract symptoms  
高橋悟編 -- メジカルビュー社，2015. ISBN 9784758312615
- 過活動膀胱診療ガイドライン 第2版  
日本排尿機能学会過活動膀胱診療ガイドライン作成委員会編集  
-- リッチヒルメディカル，2015. ISBN 9784903849300
- 前立腺がんに対する放射線治療最前線／PDE5 阻害剤と前立腺肥大症：基礎から臨床まで  
（Prostate Journal；Vol.2 No.1）  
Prostate Journal 編集委員会 -- 医学図書出版，2015. ISBN 9784865171082

附属病院 総合診療部

林 寛之 教授

- 医者でも間違える病気・ケガ・薬の新常識：年間2万人が訪れるER（救急）医が教える  
林寛之著 -- KADOKAWA，2014. ISBN 9784041019207
- ザ・総合診療医：地域医療を語り合った仲間たち  
山田隆司著；地域医療振興協会編 -- メディカルサイエンス社，2015. ISBN 9784903843704
- Dr. 林 & Ph. 堀の臨床判断：危ない症候を見分ける  
林寛之，堀美智子著 -- じほう，2015. ISBN 9784840747356

ご寄贈いただきました先生方、誠にありがとうございました。これらの著書は、各館において個別コーナーを設け、広く利用に供させていただきます。皆さんどうぞご利用ください。

総合図書館… 2階教員著書コーナー

医学図書館… 1階福井県医学資料室

今後も御著書の寄贈にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。



# 総合図書館企画展示2015



## ●「餅菓子即席増補手製集」

総合図書館で所蔵する十返舎一九著の江戸時代の餅菓子レシピ集で餅菓子からまんじゅう、団子、羊羹、あるへい糖、カステラ、飴など75種類に上る菓子製造法をのせた本の展示をしました。



## ● 図書館サポーター季節の本「新」

サポーター活動として季節ごとにテーマを設定して本の展示をする企画をしました。春のテーマは“新”で新しくはじまるというイメージで本を選び展示しました。



## ●「天文図解・夏の星空」

江戸時代の通俗天文暦学書「天文図解」は総合図書館に1, 2, 5巻を所蔵しています。それとあわせて夏の星座についての展示をしました。館内には宇宙や星に関係した本も展示しました。



## ●「人気作家ガチバトル東野圭吾 VS 伊坂幸太郎の貸出冊数バトル」

人気作家である東野圭吾と伊坂幸太郎の本の蔵書は他と比べると多く、その本の貸出冊数を競う企画を長期貸出のある夏休みをねらって開催しました。結果は少しの差で東野圭吾さんでした。



## ● 図書館サポーター季節の本「水」・「祭」

図書館サポーターの季節の本のテーマは夏らしく「水」と「祭」。サポーターそれぞれが個性的な選書をし、ポップとともに展示しました。

## ● 大学の教科書展示

オープンキャンパスでは、図書館サポーターの企画で高校生たちに大学で使っている教科書を見てもらおうと大学の教科書を展示。サポーターそれぞれが受講している講義の中から教科書を選んでポップ入りで展示しました。







## ● 「グリフィス書状展示」

福井市にグリフィス記念館がオープンしたことに合わせて、グリフィスから由利公正に宛てた書状を展示しました。



総合図書館 秋の展示企画  
・教員推薦図書展示しています(階下閲覧室新書コーナー)  
・グリフィスの書状(由利公正から由利公正へ)  
・図書館サポーターによるテーマ展示「秋」(ホリナー館)  
展示期間は1月中旬までです。ぜひご覧ください。

## ● 「教員推薦図書展示」

3階の新着コーナーを使い、毎年教員から推薦をしていただいている図書を先生のオススメコメント付で前・後半と2回展示しました。好評で、すぐに貸出中になってしまう本も続出しました。



## ● 図書館サポーター季節の本「秋」

テーマを「秋」として秋からイメージするものに関連した本を展示しました。このときから、ディスプレイにイメージ画像を流して、利用者の目を展示に惹きつけるようにしました。



## ● 「クリスマス展示」

クリスマスや冬に関係した名作と絵本を展示しました。



## ● 「Thick Books」展示

秋から冬の夜長を読書で過ごしてもらおうと、図書館の蔵書の中から分厚い本(500ページ以上)を集めて飾りました。



## ● 図書館サポーター季節の本「冬」と「アドベントカレンダークリスマスポップツリー」

アドベントカレンダーはクリスマスまでの期間に日数を数えるためのカレンダー。それを利用して、クリスマスまでの期間、冬をテーマに選んだ本を一冊づつ見せていくとともにクリスマスツリーにその本のポップを一つづつ飾りつけていきました。また、図書館サポーターによる館内企画として図書館クイズラリー開催しました。

## ● 浮世絵「浮世繪版画撰集と東海道風景圖會」

図書館が所蔵している「浮世繪版画撰集(アダチ版画研究所)」から喜多川歌麿と葛飾北斎の図版を、また歌川広重の図版とともに「東海道風景圖會(前編)」を展示しました。



かわいい葉も!!

# 医学図書館日記

お客様

## タイ国から図書館見学に来館

2015年10月5日(月)・11月9日(月)

本学が交流しているタイ国のタマサート大学、ブンヤワート高校、カセサート大学附属学校から、先生、高校生が図書館見学のため来館されました。自動貸出返却装置の操作や、パソコンによる蔵書検索を体験していただきました。



展示

## ミニ展示「2015年 ノーベル医学・生理学賞」

2015年10月9日(金)～10月30日(金)

大村智氏の2015年ノーベル医学・生理学賞の受賞に関連し、免疫学、感染症に関連する図書を展示しました。



お知らせ

## 医学図書館 Twitter 開始 2015年10月15日(木)

新着図書の紹介や、館内のコーナー紹介など日々の図書館情報をお伝えるため、ツイッターを開始。ブックハンティング等イベントの開催状況、マイライブラリのミニ講習、たまには医学図書館の外の様子など、これからも役に立つ情報をスピーディにお伝えしていきます。是非フォローをお願いします。

アカウントはこちら [@u\\_fukui\\_medlib](https://twitter.com/u_fukui_medlib)



お知らせ

## iPad 貸出開始 2015年10月29日(木)

医学図書館では、学習用にパソコン、プロジェクタ、ヘッドフォン、電子辞書を館内貸出していますが、新たに iPad を加えました。映像資料や電子ブックの利用に便利なツールです。どうぞご利用ください。



お知らせ

## グループラボ増室 2015年10月30日(金)

人気の情報工房グループラボ。階下のLDC 演習室1～4を貸していただけることになりました。これでグループ学習をしたいけど空いていない～ということがなくなるかも!? 満室のときは、みなさん快く次のグループに替わってくださり感謝しております。



イベント

## EBMR 利用講習会 2015年11月5日(木)

「科学的根拠に基づいた医療(EBM)」に必要な情報を提供するデータベース EBMR (Evidence Based Medicine Reviews) の利用講習会を、Wolters Kluwer 社のボリス ディアコノ氏を講師に迎え開催。このほか、UpToDate、CINAHL、PubMed 等のデータベース利用講習会を毎年開催しています。



イベント

## ブックハンティング

2015年11月20日(金)～12月3日(木)

図書委員の皆さんによるブックハンティングを開催。学内の書店で実際に書棚を見ながら学生目線で選書します。今回は150冊の収穫となりました。教員や図書館職員の目線とはまた異なる選書で、新着コーナーは賑わっています。





展示

## 企画展示『戦時中の義手—戦争と障害を考える』

2015年11月24日(火)～12月4日(金)

医学部 藤原教授の研究に関連し、戦時中に製作された『義手』を、大野市在住の大里晋治様(故人)のご遺族から特別にお借りする機会を得て展示を開催しました。義手は2本あり、1本は「装飾用」として、手先がゴム製で一見したところ本物の手のよう、もう1本は「作業用」として、本体は金属製で、腕の部分は帆布で覆われおり、肘や手首、指の関節が曲がるようになっていました。また、「御賜」と筆書きされた桐箱に入れられており、しょうけい館(戦傷病者史料館：東京都千代田区九段南)によれば、「日清戦争では、昭憲皇后の『敵味方の区別なく人工手足を』との御沙汰があり、以来『御賜の義肢』として制度化された」とのことです。来場者からは、「このような状況が今でも続いていると思うと切ない気持ちでいっぱい」「古いものを見ることで最新の義肢に興味を持った」などの感想をいただきました。戦争による障害が、生涯にわたる苦難をもたらしたものであったこと、世界ではこの悲劇が現在もどこかで起こっていること、身体の損傷だけでなく、化学兵器による障害やPTSD(心的外傷後ストレス障害)などの様々な障害が存在していることなど、皆さんに少しでも知っていただければ幸いです。



展示

## ミニ展示「世界エイズデー」

2015年12月1日(火)～12月15日(火)

12月1日の世界エイズデーに関連し、エイズ、免疫に関する図書を展示しました。



イベント

## クリスマスコンサート

2015年12月17日(木)

医学部管弦楽団によるクリスマスコンサートを開催。サンタやトナカイに扮した学生さんが素敵な音楽を奏でてくれました。『♪いつも何度でも』『♪ベルリオーズ幻想曲第2楽章 弦楽四重奏に編曲』『♪クリスマスメドレー』。図書館で弦楽四重奏が聴けるとは、なんて贅沢な時間…。観客のみなさんに、図書館からはマスクと図書館虎の巻のプレゼント。

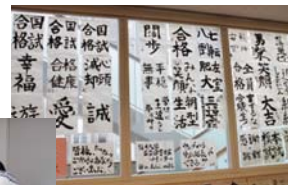


イベント

## 新春書き初め

2016年1月5日(火)～7日(木)

新年にはやっぱり書き初め！書道部の学生さんから、「小学校以来、筆を握っていない！」という学生さんまで、たくさん書いてくれました。新年の抱負や国試に向けた合格祈願のみならず、「心筋梗塞」「睡眠障害」なんて医学部らしい四字熟語まで。書かれた言葉を見るのも楽しかったです。みなさんの書き初めは、神社でお焚き上げさせていただきました。



イベント

## 国試応援メッセージ

2016年1月18日(月)

今年もこの時期がやってきました。医師、看護師、保健師、助産師国家試験の時期が！図書館でも受験生を応援するメッセージボードを設置しました。先生、後輩、職員から、たくさんのメッセージが集まりました。

この想い受験生に届け！心願成就！！全員合格！！



お知らせ

## メディアルームにパソコン増設

2016年1月22日(金)

メディアルームにパソコンが増えてい～そうです。8台追加して、すべての机にパソコンが並びました。みなさん、レポート作成や映像の閲覧にどしどし利用してくださいね！



